

## 1.近代革命の時代



目標時間

10分

- (1) 社会はそもそも個人の契約で成り立っているという説。権力者が個人の意見に反する行動を起こした場合、委託は取り消され、権力はなくなるとして、近代革命の指導的原理となった。
- (2) 社会契約説と抵抗権を唱えた啓蒙思想家。
- (3) 法の精神と三権分立を説いた啓蒙思想家。
- (4) 社会契約説と人民主権を主張した啓蒙思想家。
- (5) 17世紀半ばイギリスで唱えられた、国王の権限は神からあたえられたもので、国民はこれに従わなければならないとする説。
- (6) 17世紀の半ばのイギリスで、クロムウェルの指導によって実現した共和制の革命。
- (7) (5)は長く続かず、1688、89年には議会を尊重する国王を立てて権利章典を制定した革命。
- (8) (6)によって確立した憲法にもとづいて君主(国王や皇帝)が政治を行う国家形態。君主の権限が議会によって制限される場合と君主に権限が集中する場合がある。
- (9) (6)によって確立した、国民の代表である議員が選ばれ、その議員による議会によって政治が行われるしくみ。
- (10) 18世紀後半に、イギリス本国が新しい税を課し、反対運動を弾圧したことに抗議して1776年にアメリカが発表した宣言。
- (11) アメリカ合衆国の初代大統領。
- (12) 17世紀後半のフランスなどで国王が絶対的な権力をにぎったこと。
- (13) (12)当時の第一身分。免税などの特権を持っていた。
- (14) (13)当時の第二身分。免税などの特権を持っていた。
- (15) (14)当時の人口の90%を占める第三身分。
- (16) 1789年にパリなどの地方で人々が立ち上がり、起きた革命。
- (17) 身分の特権を廃止し、自由・平等・人民主権・私有財産の不可侵などをうたう宣言。
- (18) 1804年にフランスの肯定の位についた軍人。ナショナリズムの高まりで1815年に支配はおわった。
- (19) (18)が定めた、法の下での平等、経済活動の自由、家族の尊重を定める法律。

社会契約説

ロック

モンテスキュー

ルソー

王権神授説

ピューリタン革命

名誉革命

立憲君主制

議会政治

独立宣言

ジョージ・ワシントン

絶対王政

聖職者

貴族

平民

フランス革命

人権宣言

ナポレオン

民法典(ナポレオン法典)

日付

1回目

日付

2回目

日付

3回目

(間違えた番号)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10  
11 12 13 14 15 16 17 18 19

(間違えた番号)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10  
11 12 13 14 15 16 17 18 19

(間違えた番号)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10  
11 12 13 14 15 16 17 18 19



## 2.産業革命と欧米諸国



目標時間  
**10**分

- (1) 19世紀のイギリスは「世界の( )」と呼ばれた。
- (2) イギリスでおきた技術の向上による産業と社会のしくみの変化。
- (3) (2)によってできあがった、利益を目指して自由に競争し、資本を持つ者が経営者として、賃金をもらって働く者を雇う仕組み。
- (4) マルクスが唱えた(3)を批判する考え方。
- (5) 1871年にドイツを統一した鉄拳宰相(てっけんさいしょう)と呼ばれた人物。
- (6) 1861年にアメリカで自由貿易や奴隷制をめぐる対立から国が二分に分裂し、おきた戦争。
- (7) 合衆国の統一と奴隷の解放を図る北部が、(6)の内戦に勝利した。このときの指導者。

工場

産業革命

資本主義

社会主義

ビスマルク

南北戦争

リンカン

日付

1回目

(間違えた番号)  
1 2 3 4 5 6 7

日付

2回目

(間違えた番号)  
1 2 3 4 5 6 7

日付

3回目

(間違えた番号)  
1 2 3 4 5 6 7



### 3.ヨーロッパのアジア侵略



目標時間  
**10**分

- (1) 1840年にアヘンを厳しく取り締まった清に対し、イギリスが起した戦争。
- (2) 1842年に結ばれた条約。
- (3) イギリスは清に( )などの5つの港を開かせた。
- (4) また、( )を手に入れ、賠償金を支払わせた。
- (5) 外国で起こした事件でも、領事が自分の国の法律によって裁判を行う権利。
- (6) 清は戦費や賠償金をまかなうために農民に重税を課したことで、洪秀全を中心とする( )が広がった。
- (7) インド兵がイギリス人の上官に反乱をきっかけとし、イギリスに反感を持っていた多くの人々が加わり、反乱が各地に広がったできごと。
- (8) 19世紀末からロシアは急速に成長をし、フランスの援助で( )鉄道を建設した。

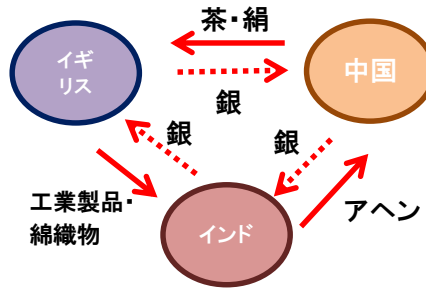


図1 イギリスの三角貿易

アヘン戦争

南京条約

上海

香港

領事裁判権

太平天国の乱

インド大反乱

シベリア

日付

1回目

日付

2回目

日付

3回目

(間違えた番号)

1 2 3 4 5 6 7 8

(間違えた番号)

1 2 3 4 5 6 7 8

(間違えた番号)

1 2 3 4 5 6 7 8



## 4.開国と不平等条約



目標時間  
**10**分

- (1) アメリカは日本を太平洋横航路の中継地にするため、東インド艦隊司令官の( )を派遣した。
- (2) (1)は1853年、4隻の軍艦を率いて( )に来航し、日本に開国を求める国書を、江戸幕府に差し出した。
- (3) 1854年、再び来航したペリーと結んだ条約。
- (4) (3)のときに開いた港。(2つ)これらの港でアメリカに食料や燃料を供給した。
- (5) 1858年には結んだ条約。
- (6) (5)のときに開いた港。(5つ)これらの港で自由な貿易を行った。
- (7) (5)の後次いで、幕府がオランダ、ロシア、イギリス、フランスともほぼ同じ条約を結んだこと。
- (8) (7)の条約は( ① )を認め、( ② )がないなど日本に不利な内容をふくんでいた。
- (9) (8)のような条約。
- (10) 貿易の最大港は横浜港で、相手国の中心はどこか。
- (11) このとき東日本を中心に何の生産がさかんになったか。

ペリー

浦賀

日米和親条約

下田(静岡県)、函館(北海道)

日米修好通商条約

函館、神奈川(横浜)、長崎、新潟、兵庫(神戸)

安政の五か国条約

① 領事裁判権 ② 関税自主権

不平等条約

イギリス

生糸

日付

1回目

日付

2回目

日付

3回目

(間違えた番号)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10  
11

(間違えた番号)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10  
11

(間違えた番号)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10  
11



## 5.江戸幕府の滅亡



目標時間

10分

- (1) 幕府が朝廷の許可なく通商条約を結んだことから、幕府に反対する( )運動がさかんになった。
- (2) 幕府に反対した大名や武士、公家を処罰したできごと。
- (3) (2)のときの大老。
- (4) 1860年に(3)は江戸城の門外で暗殺された事件。
- (5) 幕府を倒して列強に対抗できる統一国家をつくろうと考えた長州藩の人物。
- (6) 1863年にイギリスとたたかった薩摩藩の人物。(2人)
- (7) 1866年に薩摩藩と長州藩が結んだ同盟。
- (8) 土佐藩の出身で、(7)の同盟の仲立ちをした人物。
- (9) このころ全国で( )を期待して農民による一揆が起こった。
- (10) 人々が( )といって熱狂するさわぎが各地で流行した。
- (11) 1867年10月に第15代将軍徳川慶喜が政権を朝廷に返したこと。
- (12) (11)によって、天皇を中心とする政治に戻すことを宣言した号令。
- (13) 1868年1月、旧幕府軍と鳥羽・伏見(京都府)で新政府との戦争。旧幕府軍が敗れた。

尊王攘夷運動

安政の大獄

井伊直弼

桜田門外の変

木戸孝允

西郷隆盛・大久保利通

薩長同盟

坂本龍馬

世直し

ええじゃないか

大政奉還

王政復古の号令

戊辰戦争

日付

1回目

日付

2回目

日付

3回目

(間違えた番号)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10  
11 12 13

(間違えた番号)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10  
11 12 13

(間違えた番号)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10  
11 12 13

